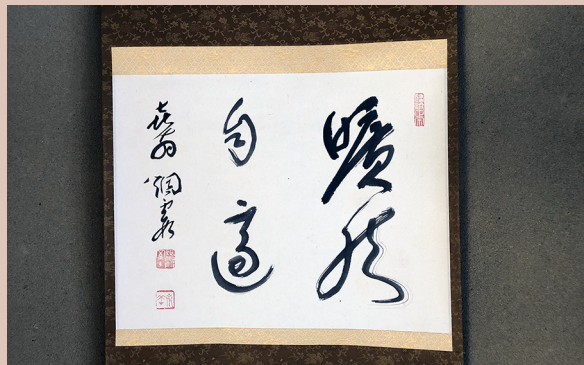




實相寺 花園会報

平成三十年
十一月一日発行
発行所

臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会

〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1

TEL087-889-3838

編集発行人
山本文匡

<http://www.jissouji.net>

第115号

「曠然自適」
こうねんとじてきす

筆 元虎溪山師家 烟霞室 磯部文保老大師

曠然自適とはゆったりとした心持ち、悠々自適と同義。『臨濟録』に出てくる言葉で、先住職の遺偈にも引用されています。先月は先住小祥忌や北海道巡教の準備などで仕方なく会報はお休みさせて頂きましたが、早いもので平成二十年十一月に小納が住職に就任して丸十年が経ちました。振り返れば思い通りにならない事や思いがけない事など種々様々ありましたが、これからも初心を忘れず精進して参る所存です。何卒宜しくお願い致します。

各種お知らせ

ハクビシン現る！

・先住桃嶺和尚小祥忌無事円成
10月7日午前10時より、桃嶺和尚の一周忌を厳修致しました。前日は台風25号の影響で新幹線や瀬戸大橋線が運休になる中、遠来を含め寺院方20名、親類や新旧花園会役員25名のお参りを頂き無事円成致しました。

7月初旬頃より玄関から本堂にかけての廊下の天井裏で時々動物の気配を感じていたのですが、山に住むハクビシンが出入りしていました。市の農水課に連絡して捕獲用わなを仕掛けて貰いましたが、なかなか掴まりません。



「信」 何を信じるのか④

終末期の患者から自死念慮者や遺族、災害被災者など様々な悲嘆^{グリーフ}ケアに取り組んでいる「臨床仏教研究所」の神^{しん}仁^{にん}師^しによれば、人がよく生きる為には「自己との繋がり」「他者との繋がり」「自然との繋がり」の三つが必要だそうです。

確かに、誰しも落ち込んでいる時は「どうせ自分なんて」と考えがちで、自己肯定感や自信を持ってないことが多いです。

また「誰にも必要とされていない」と疎外感を感じていては人は孤独です。さらに幼い頃に故郷の野山で過ごした思い出は人を豊かな気持ちにしてくれますし、多くの場合山や海といった大自然の中に身を置くと不思議と心が癒されます。

勿論ただ生きるだけならば、安全な環境と栄養さえあれば生きていきますが、

「よく生きる」いわゆるQOL(Quality of Lifeの略、人生の質)を上げるには三つの関係が必要というのも肯ける話です。

実はこの三つは仏教の「三宝」と同じです。三宝とは「仏・法・僧」の三つですが、三宝に帰依^{きえ}する、つまり三宝を信じるのが仏教徒としての基本条件です。ですから私達が「何を信じるのか？」と問われれば、それは先ず「三宝を信じる」というのが正しい答えです。

三宝については以前にもご紹介しましたが、お釈迦様がご存命中は「仏陀^{ぶつだ}・お釈迦様」と「法・お釈迦様の言葉」と「僧^{さん}伽^が・お釈迦様の下に集まった人々」の三

つが三宝でありました。これは目の前に現れていたから「現前^{げんぜん}三宝」といいます。

お釈迦様の没後は「仏・仏像など」と「法・經典など」と「僧・教団など」の三つが三宝となり、これらはお釈迦様が亡くなった後も持ち続けるべき三宝という意味で「住持^{じゅっし}三宝」といいますが、さらに私達自身が三宝の表れであるという考え方があり、これを「一体^{いつたい}三宝」といいます。

妙心寺の団参法要でお唱えする礼拝文には「自ら仏に帰依し奉る。仏とはひとし人の尊^{おのれ}さなり」「自ら法に帰依し奉る。法とは己^{おのれ}なきの尊^{おのれ}さなり」「自ら僧に帰依し奉る。僧とは和合の尊^{おのれ}さなり」とありますが、帰依仏とは、老若男女、健康な人も障がい者もみんな等しく尊い存在で

あると信じることであり、帰依法とは我欲を離れて法(森羅万象・自然界の摂理)に従うことであり、帰依僧とは社会の人々と調和していくことだと、一体三宝の意味が具体的に説かれています。

また元花園大学学長の盛永宗興老師はある講演で「いのちとは三宝の別名である」「この三宝は一体三宝のこと」「この一体三宝を禅宗では仏心という言葉で伝えてきた」と仰っています。さらに元円覚寺派管長、朝比奈宗源老師は「私達は仏心の中に生まれ、仏心の中に生き、仏心の中に息をひきとる」と仰っています。つまり三宝に帰依するとは、私達が頂いている仏心を信じ、自らのいのちを拝んでいくということなのです。